

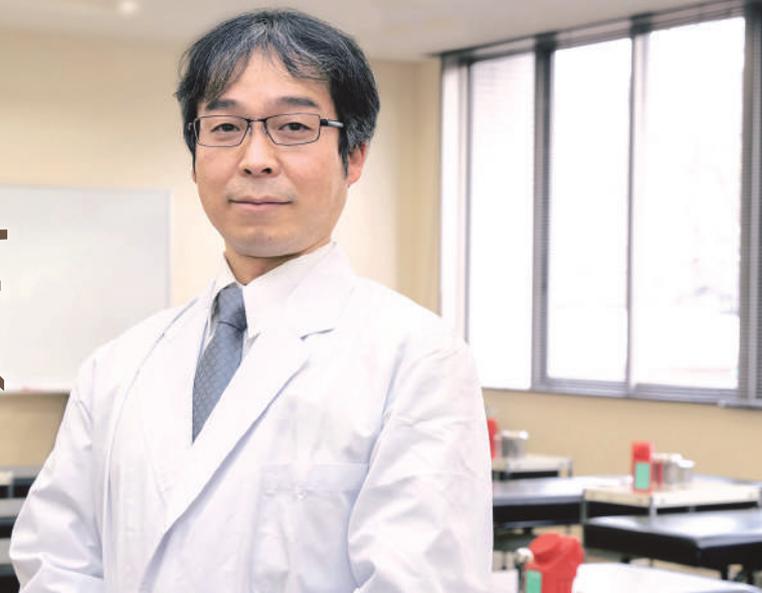
常葉だより

学校法人常葉大学
創立80周年記念号

NO.1

学校法人常葉大学
常葉大学・大学院
常葉大学短期大学部
常葉大学附属常葉中学校・高等学校
常葉大学附属橘中学校・高等学校
常葉大学附属菊川中学校・高等学校
常葉大学教育学部附属橘小学校
幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこほ幼稚園
幼保連携型認定こども園常葉大学附属たばな幼稚園
常葉大学リハビリテーション病院

学校法人常葉大学 創立80周年を迎えて — 継承と挑戦、その先へ



常葉大学 健康プロデュース学部長 中澤 寛元

学校法人常葉大学は、令和8年に創立80周年という歴史的節目を迎えます。

創立者・木宮泰彦先生は、戦後の荒廃期において「教育の力」を信じ、心血を注いで学びの場を築かれました。その志は今日まで脈々と受け継がれ、現在では静岡県内最大規模の私立学校法人へと発展を遂げています。80年にわたる歩みは、地域社会と共生しながら、知の創造と人材育成に邁進してきた歴史そのものです。

本学の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」は、知識の獲得にとどまらず、生涯にわたる学びの持続性を重視する本学の根幹です。さらに、教育理念として掲げる「知徳兼備」「未来志向」「地域貢献」は、学術的探究と社会的責任を両立させる本学の強い意志を示しています。

そして今、私たちは新たな知的挑戦へと踏み出します。

その象徴が、令和10年に予定している「新・浜松駅前キャンパス」への移転です。この移転は、単なる施設更新にとどまらず、大学の理念を具現化し、地域に開かれた大学としての使命を果たすための挑戦となるものです。また、浜松キャンパスにおける教育・研究・地域貢献を飛躍的に高度化させる戦略的転換点でもあります。

この浜松キャンパスに設置された健康プロデュース学部は、「健康」を多角的に捉え、地域との連携を重視し、住民の生活の質向上に貢献する専門職の人材育成を目的としています。

本学部は常葉大学10学部の中で最大の5学科(健康栄養学科・保育健康学科・スポーツ健康科学科・健康鍼灸学科・健康柔道整復学科)で構成され、栄養や保育、スポーツ、健康、医療といった幅広い分野を網羅し、地域社会における健康支援の中核を担う人材の輩出を使命としています。平成17年の開設以来、これまでの20年にわたる教育実践により、静岡県を中心に4,000人を超える卒業生を社会に送り出してきました。各学科では、国家資格をはじめとした各種資格取得を目指す体系的なカリキュラムに加え、医療機関や保育施設、スポーツ現場等での実践的な演習・実習を重視しています。また、経営学部や保健医療学部といった異分野の学生と協働学修を通じて、実践力を涵養し、即戦力として活躍できる人材の育成を図っています。さらに、浜松市を中心とした県西部地域との連携により、学生は地域課題に即した学びを実践し、課題解決型学習を通じて社会貢献を果たしています。このような教育環境は、医療・健康・教育・スポーツなど多様なキャリアパスを開くものであり、本学部の魅力でもあります。

創立80周年を迎え、本学部は常葉大学の一員として、これまでの未来への責任を胸に、さらなる飛躍を目指してこれからも歩みを続けてまいります。

これまでのご支援・ご助力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



学校法人常葉大学 創立80周年、その先へ

学校法人常葉大学は、本年6月8日に創立80周年を迎えます。この節目を記念し、今回の第252号と第253号では、私たちの原点に立ち返り、創立者が挑戦と情熱で築いた歩みを振り返ります。そして、その精神を次代へとつなぐ特集をお届けいたします。

創立者

き みや やす ひこ

木宮 泰彦

(1887-1969年)

大正・昭和時代の歴史家、教育者。

歴史学者の築いた常葉教育

創立者 木宮 泰彦は、明治20(1887)年10月15日、静岡県浜名郡入野村(現在の浜松市中央区入野町)にある西湖山龍雲寺に生まれます。大正2(1913)年、東京帝国大学文科大学史学科を卒業します。卒業論文は「鎌倉時代に於ける禅僧と武士の関係」でした。大正9年から山形高等学校、大正12年から水戸高等学校、昭和2(1927)年から静岡高等学校の教授を歴任し、日本の高等教育の現場で優秀な男子学生を育成しました。

その間、『栄西禅師』(1915)、『日支交通史』(1926-27)、『日本古印刷文化史』(1933)、『日支文化交渉一覧図と年表』(1940)、『日本喫茶史』(1940)、『日本民族と海洋思想』(1942)といった研究書、さらには中学校や実用学校の日本史の教科書を発表します。昭和15年夏には中国へ調査に出かけました。

昭和20年8月15日に終戦を迎え、翌昭和21年に静岡高等学校をやめて、6月8日に静岡女子高等学院を設立します。昭和23年2月に財団法人常葉学園を設置して、4月に常葉中学校を開校します。昭和25年には学校法人常葉学園に組織を変更します。昭和26年に静岡女子高等学院を常葉高等学校に改組し、以後、橘高等学校(昭和38年)、橘中学校(昭和40年)、常葉女子短

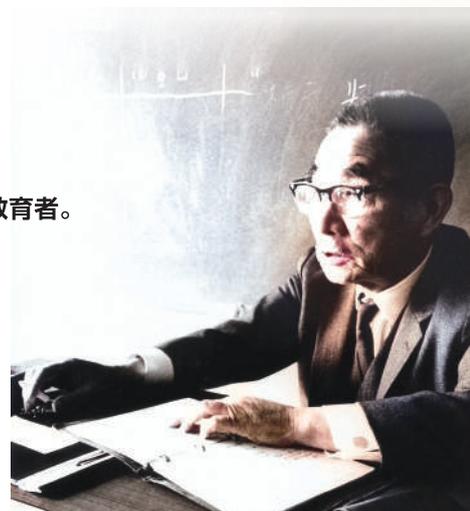
常葉大学外国語学部 教授 若松大祐

期大学(昭和41)、とこは幼稚園(昭和41)を開設します。静岡県の初等・中等教育に携わって主に女子学生を育成し、さらには男子学生や幼児の教育にも尽力しました。

常葉学園を経営しながら、研究活動も続け、昭和30年に『日華文化交流史』を出版します。これは『日支交通史』(1926-27)を書き直したものです。途中、東京大空襲で完成原稿が全て燃えたという悲劇もありました。この『日華文化交流史』は、古代から江戸時代までの日本と中国の交流を書いた研究書です。年表を活用するところに特徴があります。木宮泰彦の考えた日中関係史のパターン(時代区分、登場人物、キーワード)は、提唱者が忘れ去られて現在の私たちの常識になっています。本書は昭和55年には中国語にも翻訳されました。昭和44年10月30日に82歳で死去します。墓は静岡市葵区大岩町の臨濟寺にあります。

インターネットで「おもしろい木宮泰彦初稿」を検索してみましょう! また、『国史大辞典』第4巻(吉川弘文館、1984年)の211ページに「木宮泰彦」という項目があります。

おもしろい
木宮泰彦初稿



写真提供/株式会社やまざき写真館

学園の沿革

学校法人常葉大学は、昭和21年静岡女子高等学院が創設されたことに始まります。戦後の混乱した状況の中で、新しい私学の経営は困難を極めました。何よりも教育の力を信じた創立者木宮泰彦の教育方針に賛同する多くの人々の協力や時代の要請を受けて、常葉は一步一步歩みを重ねてまいりました。こうして80年にわたる歴史を築いてきた私たちは、これからも歩みを止めることなく、「より高きを目指して」進んでまいります。

| 昭和 | |
|----|--------------------------------------|
| 21 | 6/8 静岡女子高等学院を静岡浅間神社北回廊に開学 |
| 23 | 2/20 財団法人常葉学園設置認可 4/1 常葉中学校開校 |
| 25 | 12/7 財団法人常葉学園を学校法人に組織変更認可 |
| 26 | 10/1 静岡女子高等学院を常葉高等学校と改称・認可 |
| 38 | 4/1 橘高等学校開校 |
| 40 | 4/1 橘中学校開校 |
| 41 | 4/1 常葉女子短期大学(静岡校舎)開学 短大附属とこは幼稚園開園 |
| 44 | 10/30 創立者 木宮泰彦永眠 |
| 45 | 4/1 短大附属たちばな幼稚園開園 |
| 47 | 4/1 常葉女子短期大学(菊川校舎)開設 常葉短大菊川高等学校開校 |
| 52 | 6/8 常葉美術館開館 |
| 53 | 4/1 常葉学園橘小学校開校 常葉学園傘下の各校(園)名を変更 |
| 55 | 4/1 常葉学園大学開学 |
| 63 | 4/1 常葉学園浜松大学開学 |

| 平成 | |
|----|---|
| 2 | 4/1 常葉学園富士短期大学開学 |
| 7 | 4/1 常葉情報専門学校継承(学校法人浜松常葉学園) (平成20年4月1日 常葉環境情報専門学校を学校法人常葉学園に編入) |
| 8 | 4/1 常葉学園大学大学院開学 常葉学園浜松大学大学院開学 常葉学園医療専門学校開校 |
| 10 | 4/1 常葉学園浜松大学を浜松大学と名称変更 |
| 14 | 4/1 常葉リハビリテーション病院開院 特別養護老人ホーム「とこは」開設 |
| 15 | 4/1 常葉学園菊川中学校開校 |
| 17 | 4/1 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校開校 |
| 18 | 4/1 富士常葉大学大学院開学 |
| 20 | 4/1 常葉学園大学大学院 教職大学院開設 |
| 25 | 4/1 常葉学園大学、浜松大学、富士常葉大学の3大学を統合し常葉大学とする |
| 29 | 4/1 法人名を「学校法人 常葉大学」に改称 これに伴い3中・高を大学附属中・高とする |
| 30 | 4/1 常葉大学静岡キャンパス草薙校舎開設 これに伴い、常葉大学富士キャンパス閉鎖 2幼稚園を幼保連携型認定こども園に改組併せて、短大部附属から常葉大学附属に変更 常葉リハビリテーション病院を、学校法人の付随事業に位置づけ、これに伴い、常葉大学リハビリテーション病院に名称変更 |

静岡女子高等学院設立趣旨 (1946)



静岡に生まれ静岡で教鞭を執ってきた私は、静岡に学校を作りたい

周りに協力を仰ぎたい

太平洋戦争で敗戦した日本

私、木宮泰彦は再び日本を立ち上げるためには女性教育が必要だと考えた

一九四六年、静岡女子高等学院設立

戦争により資料が不足しているため、まずは臨濟寺の廊下を借りて授業を始めよう

しかし東京では家もなければ食べ物もなく、そんな中で高い学費を払わなければならない状況

退学を余儀なくされる女子学生も多い

我が校では、趣味豊かな授業を受けて、優雅な技能を身につけ、和やかな心を育んで欲しい

静岡県は地理的にも教育に適した環境であるのに、女性が学ぶ高等教育機関がない

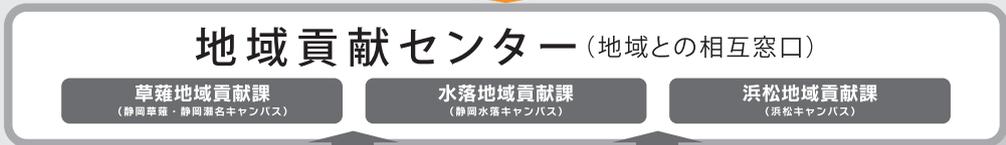


常葉大学・常葉大学短期大学部



地域貢献センターのご紹介

地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生の活動支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネート、公開講座の運営等、さまざまな取組みを通じて、地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。地域と大学を結ぶ連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。



「地域連携・交流」
ホームページは
こちら



地域貢献に関する 相談窓口

▶静岡キャンパス 地域貢献センター
TEL.054-297-6142
Email: community@sz.tokoha-u.ac.jp

▶浜松キャンパス 地域貢献センター HUVOC
TEL.053-428-3532
Email:huvoc@ml.hm.tokoha-u.ac.jp

地域交流・連携推進事業

本事業は、本学の教職員が先進的に取り組む地域との交流及び連携事業に対して支援を行うものです。「地(知)の拠点」として地方自治体及び民間団体等と共同または連携して、地域や産業の活性化等を図ること、研究成果等を地域に還元または情報発信すること等を目的とした事業を行っています。

スポーツによる地域活性化を目指した「ベルテックス静岡」との連携事業

教育学部 生涯学習学科
教授 木宮敬信

本事業は、プロバスケットボールチーム「ベルテックス静岡」との連携を核として地域活性化を目指すものです。大きな特徴は、ベルテックス静岡だけでなく数多くのスポンサー企業と連携することにあります。地元企業との課題解決につながるような学生との連携や、常葉大学だけでなく多くの地元学生の参加による学生同士の交流も促進しています。具体的には、SNSを使った広報活動、地元企業とコラボしたグッズ制作、さまざまなホームゲームイベントの企画運営等を行っています。



学校法人常葉大学では、「地域と連携し、教育を通して地域創成に貢献する」を使命とし、地域の皆さまのご支援とご協力のもと、さまざまな地域貢献活動を行っています。この度の創立80周年を機に、各校それぞれの教育と研究の力を生かした地域貢献活動をなお一層推進し、法人の使命を果たしてまいります。



とこは未来塾 — TU can Project —

学生ならではのユニークな「視点と発想」を持ち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取り組みに対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助等のさまざまな支援を行います。このプログラムに取り組むことで、静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力が地域の活性化に結び付き、最終的に学生の社会性の醸成に繋がることが期待しています。

「トコハマルシェ」を開催



地域貢献センター学生スタッフ Link は、令和7年にリニューアルオープンした大浜公園プールの公園エリアの通年活用を目的としたイベント「トコハマルシェ」を企画・運営しました。イベントでは静岡水落キャンパス「ボランティアサークル HOPE」のほか、「ハマユキプロジェクト」等の地域団体と協力し多彩な企画を行いました。当日は多くの家族連れで賑わい、来場した子どもたちがワークショップ等を楽しむ様子がみられました。

能登半島地震被災地を支援

ボランティアサークル Thunder Birds は、能登半島地震発災から1年以上経った被災地を訪問し、復興しようとする街の様子から人口減少や再建にかかる経済的な負担等新たな課題が上がっていることを知りました。学生らは浜松市内の防災イベントで能登半島被災地の現状をポスターで紹介したり、現地でお話を伺った老舗和菓子店の商品を仕入れて販売しました。また、観光に来てくれるだけでも支援になるという話を聞き、街のお勧めスポットをまとめた小冊子を作って配布し、観光誘致と防災への関心を高める活動をしています。



とこは人材育成プロジェクト

静岡県教育委員会が主催する「静岡県青少年指導者級別認定事業（初級・中級）」の認定を受け常葉大学が実施する事業であり、本学学生をはじめとした参加者の日頃の地域貢献活動やボランティア活動を評価し、静岡県青少年指導者に認定されるものです。本学の建学の精神及び教育理念に基づき、将来につながる資質や専門的な能力を高め、地域の活性化に貢献する存在、地域のボランティアリーダーとして活躍できる人材の育成を目指します。

令和7年度に中級取得を目指して活動した松本みなみさん(教育学部学校教育課程・2年)は、学内で実施したフードドライブや、子どもの放課後の居場所づくりを目的とした「とこスポ」の企画・運営を行いました。松本さんは地域貢献センター学生スタッフ Link に所属しており、橘小学校や児童クラブ等のさまざまな団体と連携し積極的に活動しました。



松本みなみさん(教育学部学校教育課程・2年)

活動の企画・運営を行い、一からプロジェクトを立ち上げる大変さを知りました。また、活動の打ち合わせをするなかで、一緒に活動する仲間がいることの心強さにも気づくことができ、貴重な経験となりました。

静岡草薙
キャンパス

匠宿クラフトバレープロジェクトを実施

経営学部小豆川ゼミは、令和7年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業の採択を受け、駿府の工房 匠宿、デザイナーの柴田剛志氏と連携して丸子・泉ヶ谷地域『匠宿クラフトバレープロジェクト』（地域資源を活かした地域活性化に関する施策等の検討）を実施しました。学生はデザイン思考を活用してイラストマップを制作し、令和8年1月10日には静岡市主催「SDGs Runway SHIZUOKA 2026」に出展し、「匠宿クラフトバレー」の魅力を発信しました。

静岡瀬名
キャンパス

「マグロ尾の身カツのっぽ」を開発



造形学部開講科目「デザインシンキングB」では、フジ物産(株)と連携しフジ物産の知名度向上について学生が取り組みました。その中で生まれたのが、マグロの未利用部位である尾の身を活用した「尾っぽパン」です。このアイデアは学生と企業の思いで実現し、更に「のっぽパン」で有名な(株)バンデロールも加わり三者協働の「マグロ尾の身カツのっぽ」の商品開発へと発展しました。商品は地域のイベントで販売し、多くの方から好評をいただきました。

静岡水落
キャンパス

しぞ〜かでん伝体操&健康ミニ講座を開催

「とこは未来教職学協働事業」の一環として、静岡水落キャンパス学友会所属の学生が企画・運営したイベント「しぞ〜かでん伝体操&健康ミニ講座」を開催しました。地域の方々を招き、静岡オリジナルの介護予防体操等を通じて世代を超えた交流を深めました。会場は笑顔と活気にあふれ、参加者からは「健康づくりについて学べる貴重な機会となった」との感想が寄せられました。

浜松
キャンパス

市民交流フェスタ2025 を開催

浜松市ギャラリーモール・ソラモにて「市民交流フェスタ2025～みんなで学ぶSDGs～」を開催しました。これは本学を含む浜松市内の5大学・3高校の学生たちが垣根を超えて、SDGsの目標達成に向けた情報発信を行うイベントです。



19団体・185名が参加し、日頃の活動成果の発信やステージ発表を通じて、自分たちにできる「持続可能な社会」を表現しました。本年度は浜松市の協力と、46の企業から協賛をいただき、会場は約6,500人の来場者で大いに盛り上がりました。

短期大学部

「0歳児からのファミリー・コンサートVol.10」に出演

令和7年10月25日、静岡音楽館 AOI(公財・静岡市文化振興財団)との連携事業として、短期大学部音楽科・専攻科音楽専攻の学生8名・保育科学生21名が「0歳児からのファミリー・コンサート Vol.10」に出演しました。選曲・アレンジからあそびうた・ダンスの演出に至るまで、学生がそれぞれの専門性を発揮し、共同で企画しました。会場いっぱい集まった小さな子どもたちが、優しい音色の手作りベビーマラカスを手に、身体全体でリズムに乗って音楽を楽しむ姿が印象的でした。





地域社会と深く繋がり、実践的な学びを広げた常葉中高の教育活動

本校では、地域との絆を深める多彩な活動を展開しました。伝統の「常葉祭」をはじめ、静岡県警・常葉大学法学部との防犯共同事業や、御幸町図書館との交流、地域安全運動の街頭パレードへの参加など、校外での実践を通じて社会に貢献しました。これらの経験を通じ、生徒たちは地域の一員としての自覚と、豊かな社会性を養いました。

中高 大学と地域と連携して常葉祭を開催しました

10月26日に常葉祭を開催しました。今年度は、初めての試みを数多く取り入れ、例年とは一味も二味も違うものになりました。「常葉中高をより多くの方々に見ていただき、知っていただきたい」という趣旨のもと、常葉大学の水落祭と同日開催にしたことで、生徒の家族をはじめ、他校の生徒や近隣地域の方々、常葉大学静岡水落キャンパスの大学生等の幅広い層の来場があり、来場者は1,000名を超えました。

当日は、中高の各クラスで工夫を凝らした企画や、展示を充実させたりとそれぞれのクラスでにぎわいを見せていました。また、常葉大学の6学部7学科からの出展もあり、学部学科の紹介に加え、販売や体験の催しを通して、常葉大学での学びを知る良い機会にもなりました。

学外からは静岡マラソン実行委員会にも出展いただき、過去の大会の様子や次回大会のPR等、静岡市を挙げた一大イベントに協力できたことはとても光栄なことでした。そのほか、北街道商店街や近隣の店舗の協力のもと、PTAが中心となった商品の販売を行う等、常葉祭を通して生徒、教員、PTA、地域の方々、大学と協力をして開催できたことは、生徒にとって貴重で思い出に残る経験になりました。



地域に愛される存在に

今年の常葉祭は、常葉大学静岡水落キャンパスと同日に開催しました。PTAの力も借りながら、近隣の店舗から多数出展していただきました。「常葉さんなら喜んで…」という声が多く、地域に愛された存在であることを改めて感じました。探究学習や高大連携講座でも、近隣の病院、幼稚園、専門学校、行政等と協同して活動し、学びを深めています。

高校 静岡県警・常葉大学法学部との共同事業

静岡県警と大学法学部、常葉高校が連携して取り組む共同事業で、高校生が迷惑防止条例違反をテーマにポスターを制作しました。内容については法学部の学生と警察が監修し、法律的な正確さと市民へのわかりやすさを両立させました。完成した作品の中から優秀作が選ばれ、駅で配布し、多くの人に注意喚起として届けられました。



高校 静岡市立御幸町図書館と交流(探究活動・グローバル班)

図書館司書の前で、多文化共生について調べた内容を発表し、参考にした本の特徴や学んだ点も共有しました。高校生として自分なりにテーマを深め、理解を広げる機会となりました。現在は、その学びをもとに図書館の関連書籍を紹介するポスターを作成しており、来館者にも多文化共生への関心を広げてもらえるよう工夫しています。



中学 地域安全運動街頭パレード

10月10日、常葉中学生が静岡中央警察署主催の「地域安全運動街頭パレード」に参加しました。静岡中央警察署とは日頃からさまざまな学校行事で連携を図っています。今回のパレードでは、常葉中学生が静岡市の街中を歩き回り、地域の防犯広報の呼びかけを積極的に行い、静岡市の防犯意識を高める運動に参加しました。





地域と未来を結ぶ橘の挑戦 —プロジェクト活動・太鼓・福祉体験—

橘中高では、高校生の青春SPARK祭での活躍、太鼓部の地域祭礼での奉納演奏、中学1年生の福祉施設体験等、多彩な地域連携が展開されました。生徒たちが社会とつながり、学びを広げる貴重な機会となりました。

高校 青春SPARK祭で活躍

橘高校が静岡市青葉シンボルロードで開催された静岡第一テレビ主催「第1回青春 SPARK祭」に参加しました。高校2年生普通科の総合探究学習「TPRプロジェクト」からは、日本茶カフェ・パン屋・洋菓子店の3ブースを出展し、生徒のアイデアを基に開発したコラボ商品を販売しました。当日は多くのお客さまに来院いただき、生徒たちの主体的な取組みと創意工夫が随所に感じられるイベントとなりました。

1年生の総合探究学習「SDGsワークショップ」からは、静岡第一テレビと協働して古着リサイクルブースを出展し、ファッションロス削減に向けた取組みを発信しました。また、チアリーダー部・応援団は迫力ある演技を披露し、美術専攻の作品展示も会場を彩りました。さらに、SP(スクールプロモーション)部は高校生実行委員として県内の高校生とともに約3か月間準備に尽力し、イベントの成功に大きな感動を抱いていました。総来場者数2万人超の中で、本校生徒の多彩な活躍を見ていただくことができました。

橘高校は、地域とのつながりを通して生徒の自己肯定感・自己効力感を育て、社会の中で自分が生きている実感を得られる機会を今後も大切にしていきたいと思えます。



高校 地域に響く力強い鼓動

橘高校太鼓部は、10月12日の「第50回瀬名中央祭り」、18日の「瀬名・利倉(とくら)神社秋季大祭」にて太鼓演奏を披露しました。

「瀬名中央祭り」では、瀬名中央自治会主催のもと、約30分間の演奏を地域の方々にお届けしました。利倉神社では奉納太鼓として、神前で演奏するとともに、ご参拝の皆様にも楽しんでいただきました。

太鼓部は演奏会での機会に加え、ここ2年ほどで地域の団体から直接出演の依頼を受ける機会が増えています。地域の皆様に喜んでいただけるのはもちろん、太鼓演奏の醍醐味や魅力を発信する場が広がっていることに、部員一同、感謝の気持ちを深めています。



中学 地域とつながり、未来の福祉を支える学びへ

橘中学では12月3日から4日に、中学1年生が地域の高齢者福祉施設を訪問し、職場体験を通して福祉の仕事や現場の現状について学びました。中学生という柔軟な価値観を育む時期に、福祉の専門職が担う役割や地域社会にとって欠かせない仕事の重要性に触れることは、将来の進路選択だけでなく、地域の未来を支える視点を育む大きな機会となりました。



施設では、利用者の生活支援やレクリエーション補助等の基本的な業務を体験しました。生徒たちは、目の前の「人の生活を支える」という仕事の重みを感じながらも、利用者の方々と交流する中で温かい言葉をかけていただいたり、笑顔を引き出すことができたりと、多くの学びと喜びを得ることができました。

今回の取組みが、福祉現場に新たな活力を生み、地域の高齢者の方々にとっても意義ある時間となったことは、何よりの成果です。今回の体験を単なる学習機会として終わらせるのではなく、生徒一人ひとりが地域社会の一員として、活躍する力を身に付けるきっかけとして大切にしていきます。



菊川市とのつながり —地域貢献活動を通じた豊かな学び—

菊川中高では地元である菊川市とつながった活動にさまざまな形で取り組み、地域の発展に貢献することができました。今回はその中から3つの取組みを紹介します。

高校 美術・デザイン科 地域貢献活動「みらい学」

美術・デザイン科は1年生から3年生までの希望者を対象に地域貢献活動「みらい学」に取り組んでいます。菊川市と本校とのフレンドシップ協定に基づき、NPO法人 アートコラールきくがわと連携しながら、これまで長きにわたってさまざまなアートを通して、菊川市を元気にしようとして取り組んできました。今年度4月には、アートコラールきくがわと協働で「ジュニアアート教室」を開催しました。当日は、50名の児童・園児に参加していただき、花のブローチづくり、スティックづくり、「茶畑の中心で愛を叫ぶ」のイベントに向けた会場装飾用の巨大アート制作を企画しました。巨大アート制作では、生徒が事前に準備したベニヤ板4枚分の下地に、子どもたちが菊川の好きなところやメッセージを書いたハート型の画用紙や折り鶴を貼り付け、作品は会場に展示されました。



11月にはアートコラールきくがわ主催の「みんなのアソビバ 小さな収穫祭」に参加しました。また、3月に開通する菊川駅の南北通路に関連した内容を企画しました。秋晴れのもと多くの親子連れが来場し、生徒が準備したアトラクションに楽しむ姿が見られました。

これからも菊川市を元気にできるようにさまざまな活動に取り組んでいきたいと思えます。

高校 中高一貫Sコース 市政懇談会

11月26日、菊川市の長谷川寛彦市長をお迎えし、市政懇談会を実施しました。中高一貫Sコースの2年生53名が参加し長谷川市長から市政に関する説明や、市長自身のこれまでのさまざまな経験に基づくお話をいただきました。市長が取り組んだ具体的な政策についてや、市長の前職の天竜浜名湖鉄道社長時代の話等、生徒も興味深く拝聴しました。説明後は市長への質問時間も設けられ、生徒から多くの質問がありました。また、菊川市在住の生徒からは、「これまで気にしていなかったことにもこれからは興味を持ち、菊川市の変化を見ていきたい」等の声がありました。



中学 総合学習 TKCプロジェクト

菊川中学校では、総合学習として「TKC(常葉菊川クリエイティブ)プロジェクト」に取り組んでいます。1年生は地元・菊川市の良いところや地域課題をテーマに調査を進め、2・3年生は「防災」「芸術」「地域」「スポーツ」の4講座から1つを選択し、縦割りグループで問いを設定して学習を深めています。夏休みにはインタビューや実地調査等、それぞれが主体的に情報収集を行い、得られた知見をスライドにまとめました。



また、菊川市の方々にもご協力をいただきながら活動を行っています。防災講座ではふじのくに防災士菊川市委員会の方々とは避難所運営ゲーム(HUG)に挑戦し、実践的な判断力を養いました。芸術講座では本校の近所にある堀之内こども園の園長先生から、幼児の行動や接し方等について学び、子どもたちが笑顔になるようなオペレッタの創作に励んでいます。地域講座では市民協働センターを訪れ、センター長との交流を通して、市の特徴や地域連携の取組みへの理解を深めました。スポーツ講座ではパラスポーツや救命救急法(AED操作等)を学び、知識と技能を身に付けています。

3学期には学びを地域へ還元する機会として活動の成果を発表し、芸術講座では堀内こども園の園児を招いて劇を披露しました。



連携で児童を育てる

オーケストラ学習発表会

本校の特色教育の1つとして行っているオーケストラ学習。年に1度実施する学習発表会では、子どもたちの練習の成果を多くの人に聴いていただいています。本年度も12月9日に静岡市清水文化会館マリナートで実施しました。1年生、2年生のヴァイオリンとチェロのアンサンブル、3年生の弦楽合奏とオーケストラ、4年生から6年生のオーケストラ、フィナーレは6年生の演奏による全校合唱でした。来場者から大きな拍手をいただくことができ、子どもたちもまた一段と成長することができました。大成功のオーケストラ学習発表会でした。



たちばなふれあい祭り

11月8日に全校児童が楽しみにしているイベント「たちばなふれあい祭り」が実施されました。6年生は下級生やお客様のためにゲームコーナーを運営し、お茶クラブはお点前を披露して来場者をもてなしました。当日は、多くの保護者の皆さまをはじめ、千代田消防署、自衛隊、常葉高校の皆さまにもご来場いただき祭りを盛り上げていただきました。笑顔いっぱいの1日になりました。



「共に学ぼう」研修会

本校では、保護者・教職員をはじめ、系列・近隣校関係者等に声かけをして、子どもたちの「未来を切り拓く生きる力を育む」ために研修会を実施しています。本年度は、8月に静岡大学の小林朋子先生から「レジリエンス」について学び、12月に常葉大学の酒井郷平先生から「情報モラル」について学ぶことができました。子どもたちのために、学校や家庭の役割について考える貴重な機会となりました。



常葉大学附属 とこは幼稚園



附属園ならではのいかして

親子遠足に出かけたよ!

11月中旬「常葉大学静岡瀬名キャンパス」に親子遠足に出かけました。当日は心地よい風が吹く中、まずは準備運動からスタートし、「せーの」の掛け声に合わせて体を動かしながら、親子で触れ合い温かな雰囲気の中で身体をほぐしました。その後はビニール袋を活用して遊び、袋を膨らませて走らせたり、引っ張り合いをしたりと、親子それぞれが工夫しながら活動に参加する姿が見られました。風を受けて袋が大きく膨らむたび歓声があがり、子どもたちは笑顔いっぱいで夢中になって遊んでいました。最後には、「もっとやりたい!」という声が聞こえるほど、あっという間な時間でした。保護者の方々が全力で走ったり応援したりと遊びに参加してくれたことで、子どもたちの意欲もさらに増していたように感じました。いつもとは違う大学の大きなグラウンドでのびのびと身体を動かし、親子の温かい交流が深まった一日となりました。





地域の健康と未来を支えるリハビリテーション活動

常葉大学リハビリテーション病院では、回復期リハビリテーション病棟を中心としたリハビリテーション医療を提供し、患者様の在宅復帰や生活の質の向上に努めています。本年は地域連携と地域貢献を推進し、さまざまな取組みを行いました。

「口腔・身体・認知」の総合健康支援

聖隷福祉事業団 もくせいの里 との連携では、従来から継続してきたオーラルフレイル予防に加え、新たに「脳トレ」を導入しました。月2回の訪問により、口腔機能だけでなく身体と認知機能の両面から健康づくりの支援に努めております。加えて、これらの取組みを共同でまとめ、リハビリテーション・ケア合同研究大会大阪 2025 で演題発表を行いました。



未来の医療人材へ向けたキャリア教育支援

常葉大学附属菊川高等学校の探究分科会にて、医療専門職の仕事内容や、やりがいを紹介しました。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士が直接説明し、医療の仕事を手近に感じてもらい、進路選択を支援する機会となりました。

常葉大学静岡水落キャンパスで開催された「医療・施設系説明会」に参加し、卒業生である理学療法士が4年生に対して病院紹介を行いました。若手が働きやすい環境づくりと、次世代の医療人材育成にも引き続き力を注いでいきます。



地域に開かれた園を目指して

あそびの会「ちびっこなまつり」

私たちは「地域に開かれた園」を目指し、未就園児世帯対象に園に遊びに来ていただく機会を設けています。大きな遊具や砂場、広々とした園庭で思い切り遊ぶ「園庭開放」や歌やリズム遊び、造形、運動等、園での遊びを親子で楽しむ「あそびの会」を通して、地域のお子さんとその保護者が情報交換や仲間づくり、子育て相談ができる場を大切にしています。

7月8日のあそびの会では「ちびっこなまつり」を開催し、120名の親子にご参加いただきました。盆踊りを一緒に踊り、5歳児が主体となってお祭りごっこを一緒に楽しみました。園児が作ったチョコバナナ屋さんやたこやき屋さん、ゲームコーナーで遊び、参加した親子の笑顔があふれていました。



また別の日には園児が日頃楽しんでいるダンスや大きなシャボン玉遊び、全身を使った運動遊び等を行い、家庭ではできない経験に触れる機会を作りました。

これからも、地域の未就園児が安心して楽しめる場を提供していきたいと考えています。



— 令和10年4月、新たな学びのステージへ —

新・浜松駅前キャンパス 安全祈願祭を挙行

令和8年2月11日、新・浜松駅前キャンパスの安全祈願祭を執り行いました。当日は、静岡県の鈴木康友知事をはじめ、学校法人常葉大学および施工会社の関係者が参列し、工事の安全と無事な完成を祈願しました。

令和10年4月の開設を目指し、安全管理の徹底を最優先に事業を進めてまいります。



浜松キャンパス

保健医療学部 作業療法学科は静岡水落キャンパスへ移転

静岡県中部地区初の作業療法学科です。



作業療法学科
についてはこちら



その人らしい生活を取り戻すために、
患者さんに寄り添い、作業療法を通じて、
からだところの回復をサポートします。

Occupational Therapist
作業療法士(OOT)は国家資格を有するリハビリテーションの専門家です

機能訓練・生活動作・家事動作・遊び・アクティビティ・生活リズムの回復

- 手の動きの回復
- 衣服着脱の指導
- 精神機能やこころのサポート・就労支援
- 食事方法の工夫
- こどもの発達サポート

資格を取得した卒業生の

就職率 **100%**

2025年度
在籍状況

男 女
58・47
(105名)

過去4年間の卒業生

男 女
45名 57名
(102名)

全国の作業療法士は約10万人※理学療法士は約20万人
男性：女性 = 4：6程度

- Q 作業療法士の勤務は不規則ですか？
A 規則的な日勤帯の勤務で夜勤はありません
- Q 待遇面はどうか？
A 医療専門職の採用で理学療法士と同じ待遇条件です
- Q 大学で学ぶメリットは何ですか？
A 高度な専門知識と技術、幅広い教養を身につけることができます。